
海の誓い

Koh

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海の誓い

【Nコード】

N3032N

【作者名】

Koh

【あらすじ】

夜中に幼い息子を抱いて家を出る妻。

自分にとってかけがえのない二人を追う男。

処女作です。

1 .

？俺は今、バイクに跨り目の前の黒い軽自動車を追っている。

？妻が幼い息子を乗せた軽自動車を。

ごめんなさい。

？そう枕元で呟き、妻はまだ眠る息子を連れて家を出た。

ガチャリ、と玄関の鍵が閉まる音を確認して、すぐさま飛び起きる。

レザースーツを着込み、赤いヘルメットを持ってマンションの一室
を出る。

両方とも妻に内緒で買った物。

普段はグレーのヘルメットに妻からプレゼントされたお気に入り
のデニムのジャケットを着ていたから、あとを尾けても多分ばれは
しない。

マンションの駐輪場に駐めてあるスポーツタイプのバイクに跨り、
すぐに妻の通勤用の黒い軽自動車を探した。

時刻は3時。

辺りはまだ暗いにも関わらず、幸いにも街灯とテールランプのおかげですぐに見つかり、あとを追う。

30分ほど走ったところで海が見え、嫌な予感が胸を過る。そうであつて欲しくない。

更に10分ほど走ると、海辺に近い駐車場に車がとまる。

近くのコンビニにバイクをとめ、ヘルメットを被ったまま急いで車へむかう。

案の定、嫌な予感が的中した。

まだ眠る幼い子供を抱え、暗がりの海へ1歩1歩、近づく女性。

走った。

けれど、女性の頭が海に消えた。

何も考えず、ヘルメットを脱ぎ捨て、レザースーツを身に纏ったままに海へ入る。

女性と子供を、自分が愛してやまない妻と幼い愛息子を探す。

泳ぐにはまだ早い水温。

手先が冷え、足の爪先の感覚が無くなっても構わず、探し続ける。

漆黒の海に潜り、妻と息子が生きている事を祈って。

ふと、手が温かいものに触れた。

持てる力を全て使って引き寄せ、足のつかない海の中を懸命に浜辺まで泳ぐ。

俺は妻を、妻は息子を、しっから抱いて離さぬままに。

浜辺に二人を寝かせ、人工呼吸を試みる。
泳いでいた時すでに、二人の呼吸はなかった。

生きる。頼む、生きてくれ。

そう、強く願い、望みながら、出来る事をやっていく。

息子が、妻が、水を吐いて苦しそうに咳込む。

安堵した。

この時ほど、いるかも分からぬ神に感謝したことはない。

急いで救急車を呼んだ。

2 .

幸い二人に異常はなく、後遺症も残らないとのことだった。

あの後俺は、近くに住む両親に連絡して妻の車をマンションまで持たせてもらい、自分はバイクで妻と息子がいる病院へむかった。
潮風が、身に凍みた。

病院で案内された部屋では、ベッドの上で、愛する二人が穏やかな表情で眠っていた。

海のことなどなかったかのように。

ふと、目が覚める。

どうやらベッドの脇で座ったまま眠ってしまったらしい。

二人は眠ったまま。

一時、二人はこのまま眠ったままなのではと不安に思う。

杞憂に終わった。

妻が目を覚ました。

こちらを見て目を見開く。

互いに何も言えぬまま、少しばかりの時間が過ぎる。

今度は息子が目を覚ました。

怖かった、と。

そう、言った。

夢を見た、夢ではママが僕を抱いてまっ暗な海に沈んでいくのだと。

夢だと思っているのなら、そのほうが良いと思った。

酒が飲めるようになったら、酒の肴に真実を話してやろう、と。

大丈夫だから、パパもママもここにいるから、まだ眠っていなさい。
頭を撫でてやると、すぐにまた瞼は閉じた。

3 .

あれからひと月がたった。

今は幼稚園に通う息子ももう夏休み。

あれ以来息子は海を怖がるようになってしまった。

怖い海だけじゃなく、綺麗な海もあることを教えたくて、沖縄に三人で旅行に来た。

飛行機の中で息子は寝てしまっていて、綺麗な海を見ることは出来なかった。

沖縄に着いて一日目は海に行かず、レンタカーで観光に行った。
気の良いお兄さんに、息子が風船を貰った。

その夜、ようやく妻があのことに至った経緯について語り始めた。

息子が眠りに落ちるのを見計らって。

あの子は貴方の子ではないの。
そう、言った。

この時俺は、全て知っていた。
妻が俺の同僚と浮気したことも、息子と血が繋がっていないことも。

浮気は同僚からの自白と謝罪で。

息子のことは、息子が生まれた時に、医者から。

知っていたよ、とそう返した。

俯いたまま、妻の肩がピクリと震える。

知っていて、それでもお前を愛したのだと、息子と血が繋がって
なくとも、あいつは俺とお前の息子だと。

悪かった。知っていることを言ったら、お前が離れて行きそうで怖
かった。

俺は今、プロポーズした時以上にお前と、息子を愛していると。

そう、言った。

自分の胸で声を押し殺して泣く、愛しい女性を抱き締めたまま、そ
の日は眠った。

暗く綺麗な、けれど何も変わらぬ海のように、この愛が変わっても、
愛する相手が変わらぬことを誓って。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3032n/>

海の誓い

2010年10月11日21時15分発行